

朝日町 人口ビジョン(案) 令和7年度改訂【概要版】

I. 人口ビジョンの位置づけと対象期間

■位置づけ

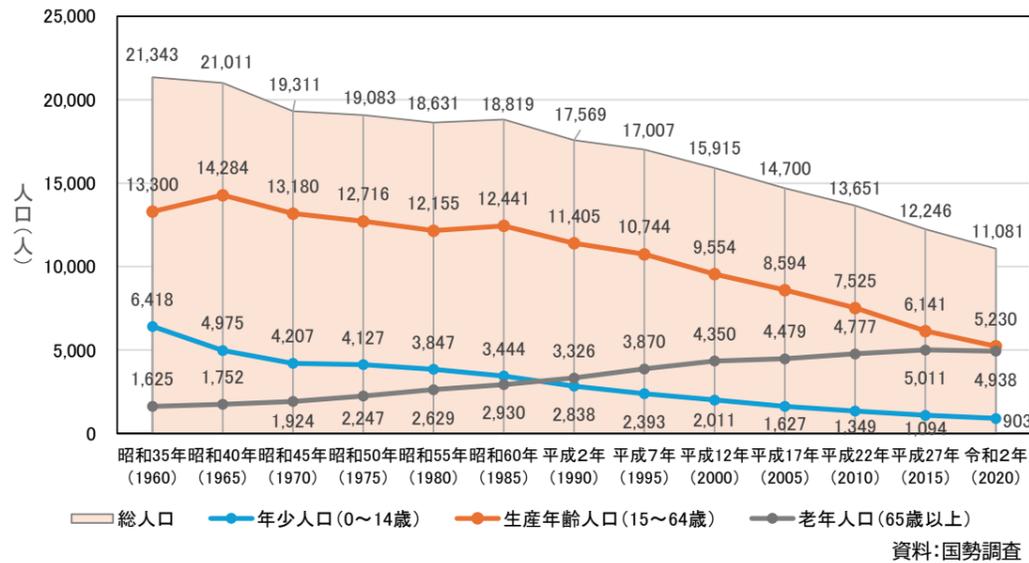
朝日町における人口の将来を分析し、今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望を提示する。まち・ひと・しごと創生の実現に向けて効果的な施策を企画立案するための基礎資料とする。

■対象期間

令和42(2060)年までを対象期間とする。

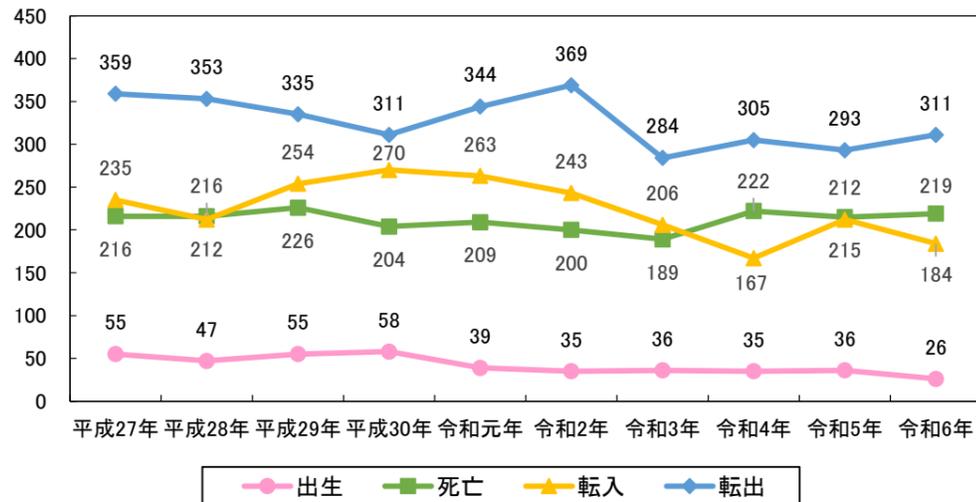
II. 朝日町における人口の動向

図1 総人口及び年齢3区分別人口の推移



・朝日町の総人口は、昭和60年の18,819人から減少傾向が続いており、令和2年では11,081人と、概ね5年間に1,000人ずつの減少となっている。
 ・年齢3区分別では、老年人口が一貫して増加しており、令和2年では生産年齢人口と拮抗している。

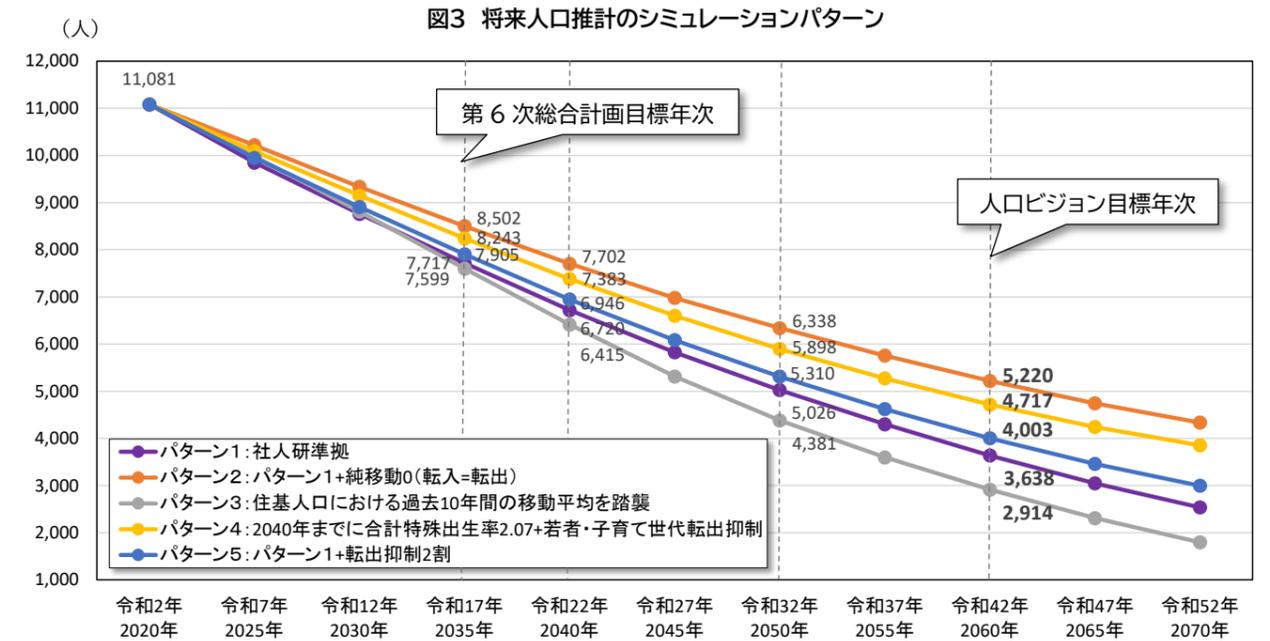
図2 人口動態の推移



・自然動態では、出生数が減少し、死亡数が増加することにより、自然減が拡大している。
 ・社会動態では、直近において転出数が300人を下回り減少している。転入数は平成28年から30年の間に増加が見られたが、その後減少し、直近では再び増加している。

III. 将来人口の推計と分析

・将来人口推計について、5つのパターンでシミュレーションを行ったところ、2060年では、転入と転出を拮抗させるいわば純移動ゼロを見込んだパターン2が5,220人と最も多く、直近10年の移動平均が今後とも続くと想定したパターン3が2,914と最も少なくなっている。



IV. 人口の将来展望 ※パターン5に基づき設定

- 将来人口フレーム: 令和42(2060)年に4,100人
- 現状の転出超過水準から2割の抑制。若年層を中心とした移住・定住支援を積極的に進めながら、人口減少幅の縮小に努める。

